

視 察 調 査 報 告 書

委 員 会 名	議会広報委員会
参 加 者	委員長 土谷 直樹 副委員長 加藤 義幸 委 員 本多 勝 三浦 康宏 神谷 茂樹 福田 澄代 瀬戸清太郎 井町 圭孝 杉浦 久直
視 察 日 時	令和7年5月13日（火）
視察先・概要	兵庫県姫路市 人口：516,989人 世帯数：231,750世帯 面積：534.35 k m ²
視 察 項 目	議会広報活動について
視 察 概 要	1 定例会における広報 (1) 広報の概要 ア 会議日程 ・ ケーブルテレビ放送 ・ 議会PRポスター ・ デジタルサイネージ、庁内モニター ・ 市公式SNS ・ 広報ひめじ ※令和5年度末まで実施していた取り組み ・ テレビスポットCM ・ ラジオ放送（AM・FM・コミュニティFM） ・ 大型ビジョン放送 イ 本会議 ・ 本会議中継（ケーブルテレビ、インターネット） ・ 議案、質問項目の文字放送（ケーブルテレビ） ・ 質問項目の新聞広告 ※令和5年度末まで実施していた取り組み ・ 質問項目のラジオ放送（コミュニティFM） ウ 事後広報 ・ 議会報ひめじ ・ 点字、声の議会報 (2) 議会PRポスター ア 概要 市議会定例会の日程を市民に告知するために作成するポスター A3判オールカラー、年4回、1,600部／回 イ 作成方法 議会事務局調査課が作成 ウ 予算 37万6,000円

(3) 新聞広告

ア 開始

平成11年第4回定例会～

イ 掲載日

本会議第2日目（質疑、質問日の初日）の前日朝刊

ウ 掲載紙

朝日、毎日、読売、産経、神戸新聞の地方版

エ 掲載項目

質問日、質問者名、会派名、予定時間、主な質問内容

オ 予算

325万6,000円

(4) 議会報ひめじ

ア 主な特徴

- ・配布時期が早い（閉会后約1か月）
- ・質問の見出しにピクトグラムを活用
- ・質問者の主な質疑、質問内容を一覧表で掲載（新聞広告と同内容）
- ・議員紹介コーナー（議員自ら原稿執筆）

2 議会全般に係る広報

(1) 広報の概要

ア 市議会ウェブサイト

イ 議会PR動画

ウ 高校生と姫路市議会との座談会

(2) 議会PR動画

ア 主な内容

二元代表制、議決機関と執行機関、市議会、請願・陳情、傍聴案内、本会議中継・インターネット中継、議会報ひめじ

イ 完成時期

平成31年1月

ウ 視聴方法

- ・市内の中学校、高校、図書館等にDVD配布
- ・YouTube「ひめじ動画チャンネル」に掲載

(3) 高校生と姫路市議会との座談会

ア 目的

- ・市議会議員との意見交換を通して、市政や議会活動への関心と理解を深める
- ・自分たちが暮らす地域の課題や将来の街づくりについて、高校生の視点で自由な発想や意見を発表し、共に考え学ぶ場として開催する

イ 参加者

- ・高校生（市内にある高等学校の生徒）
- ・全議員（常任委員会ごとに開催）

ウ 日程

	12月上旬（第4回定例会閉会後から仕事納め前日） エ 内容 ・各常任委員会につき、1、2校（約10人）が参加 ・座長は委員長が務める ・常任委員会ごとに、所管事項に関連するテーマについて、高校生と各常任委員会委員が意見交換を行う ・意見交換終了後に議場見学も実施し、全体で約2時間を予定
所 感 ※視察しての感想や岡崎市への提言など	・姫路市議会の議会広報は、朝日、毎日、読売、産経新聞及び地方紙の5紙に対して、一般質問者、主な質問内容などを掲載していること、議会PR動画の発信、高校生と姫路市議会との座談会、議会PRポスターの作成、広報誌の作成など多岐にわたっている。マンネリ化などもあり、市議会をPRするための予算執行であるが裾野を広げることが今一步のようだ。高校生議会は、一部議員のみの出席であったが、座談会に変更したことで全議員が関われるようになったのはよいと思ったが、市内全高校に対して出席者を募集するより、本市議会のように学校を絞って開催したほうが、準備もしっかりできると思った。広報活動は地道であるが、確実に市議会を知ってもらうため、少しずつでも改革を続けるべきであろう。 ・姫路市では、議会をより身近に感じてもらうことを重視し、高校生との座談会、駅構内ポスター、YouTubeによる広報動画など多様な媒体を活用した議会広報を展開している。議会だよりには議員紹介欄を設け、親しみやすさの醸成を図っている。座談会では、生徒が議会や市政に関心を持つきっかけとなるよう工夫されており、若者との双方向的な接点づくりが意識されている。一方、市の投票率は低く、広報が政治参加に直結していない課題もある。LINEでは市の公式アカウントから議会情報も発信されているが、本市では議会に関する発信がほぼなく、情報接点の希薄さが課題である。本市でも、まずは発信手段を確保し、若年層との接点を意識した広報体制の構築が求められる。 ・姫路市では市民に市議会を広く認知してもらうことを目的に、①議会事務局で平成11年度から毎議会、本会議2日目（質問初日）の主要朝刊の地方版に広告を、325万6,000円の予算で掲載し、②昭和60年度から議会PRポスターを市内に掲示しており、それまでは市長部局で作成していたのを、令和6年度からは37万6,000円の予算で、これも議会事務局が年4回、A3判オールカラーで1,600部/回作成し、市内の目につく場所に掲示している。特にこの2つの取り組みが本市にも活用可能なものと興味深く感じたが、姫路市議会の前回投票率が44.73%なのと、新聞購読率や新聞購読層を考えると、予算的にもPRポスターの方が現実的に試す価値がありそうだ。 ・「議会を開催する」ことを積極的にPRしており、新聞広告（5段抜き）、デジタルサイネージ、1,600部のポスターなど多方面で情報発信を行っている。高校生向け主権者教育では、関西らしい座談会方式を採用

し、対立を避けた並列的な意見交換が実現している。さらに、「議会の質問は議会のものであり、議員個々のものではない」という理念の下、議会全体で質疑が行われ、税金で提供される行政サービスの内容と水準を皆で決定していく過程を分かりやすくまとめていた。幅広い分野の質疑を漏れなく取り扱うため、本市では一般質問を議員ごとに掲載している。議案審議については、審議のポイントが伝わりやすいよう、紙面を改善していきたい。

- ・ 姫路市の議会広報活動では、市議会のPR活動に力を入れており、デジタルサイネージでの会議日程表示や、自治会、学校へのポスター配布、SNS発信を積極的に行っていた。また、PR動画の作成や高校生との座談会を実施し、若者の市政への関心を高める取り組みも行っていた。広報誌では質問の見出しにピクトグラムを使用し、議会報は定例会終了後1か月以内に配布するなど、迅速な情報発信に努めていた。本市においても、デジタルサイネージやホームページでの工夫により、経済負担をあまりかけずに広報の工夫が出来るのではないかと考える。財政状況や職員負担を考慮しつつ、参考にできる点を取り入れていきたい。
- ・ 開かれた議会運営を目指すための広報施策の内、特に広報宣伝に注力していた。一例として、議会開会前に、PRポスターを全町内会へ配付、議員一般質問の通告事項を新聞へ掲載するなど、議会と市民の間を取り持つ広報の特性を活かし積極的な取り組みは大変参考になった。中でも議会広報紙へ議員紹介コンテンツを設けており、議員のプライベートの側面を紹介するコーナーは、本市の広報活動として大変参考となったため、本市の今後新たな取り組みとして取り上げるテーマだと感じた。なお、事務局からの情報発信や広報活動が積極的である一方で議員の関わり方が若干控えめだと感じるところもあり、地域差を感じる一面もあった。市民に開かれた議会には、市民が議会への関心を高めることが必要であり、姫路市の取り組みを参考に、より一層広報活動に力を入れていきたい。
- ・ 姫路市議会の広報活動に関する取り組みの中で、市が持つ様々な場所に設置のデジタルサイネージを活用して、議会日程の周知を行っている点は今後本市でも検討していく価値はあると感じた。現在本市では市役所市民課の他、東岡崎駅、図書館交流プラザりぶら、岡崎公園、籠田公園などにデジタルサイネージが設置されている。また、高校生との座談会を実施しており、本市の意見交換会と趣旨は同じと感じた。本市では高校生の意見やアイデア、率直な意見を聞き出す手法は決まっていないが、姫路市議会では高校生のプレゼンから始まり、それから議員との話し合いが始まるとのことである。簡単な資料でもあった方が、意見が伝わりやすいため、検討する価値を感じた。
- ・ 姫路市議会の広報活動は、本市議会との違いを意識させられた視察であった。まず、議会日程等の広報が多くの媒体で行われており、市民との接点を増やすことで市議会での議論に関心を持ってもらう取り組みは、

	本市議会も可能な限り目指すべきものである。特に市の公式SNSを利用しての議会日程等の発信は大きな予算増も伴わないものと思慮され、速やかに実施できるのではなかろうか。また、事後広報として、点字、声の議会報も行われているとのことで感心した。本市でも申し込まれた障がい者への議会だより音訳版の送付は行われているが、特に音訳したものは、障がいの有無に関わらずニーズが想定される。本市では、市政だよりの音訳版のデータはホームページに上げられるようになってきており、市議会においても同様の対応が進むことが望ましいと感じた。
委員長の総括	姫路市の議会広報活動では、市の動画チャンネルでのPR映像や議会だよりの議員紹介、全町内会へのPRポスター配布、デジタルサイネージの活用など、多様な手段により議会日程や議員活動の“見える化”が進められていた点が印象的だった。中でも、議員の人柄を伝える特集は、市民との距離を縮め、親近感を醸成する有効な取り組みと感じた。 また、高校生との座談会にも継続的に取り組まれており、若い世代との関係づくりを重視している姿勢が見られた。特に、高校生によるプレゼンテーションから始まる構成は、意見を引き出しやすくする工夫が施されており、本市の意見交換会の今後においても参考になる手法だと感じた。